

広報

きたもと

1月

2020 No.983

特集面

きっと、もっと、きたもとが好きになる旬な話題をお届け!

北本の魅力をみつけ・ささえ・つたえて「つなげる」

特集1

暮らしの編集室



特集2

私の『居場所』は地域にある ~人生100年時代のつながりづくり~



そして何よりも面白いことを考えているお店や作家さん、それらを楽しむ人々が緩くつながっているコミュニティがあります。暮らすことを考えると東京よりこっちの方が居心地がいいし、むしろ面白いことができるんじゃないかと活動を始めました。

北本市観光協会と一緒に企画を行っている「森めぐり事業」では、市内に点在する雑木林を会場としてマーケット・子どもの遊び場作り・ライブイベントを行い、さらに稲刈り体験や植物染めの体験、市内店舗と協力し「森のレストラン」

北本の魅力を見つけ・ささえ・つたえて「つなげる」

特集1

暮らしの編集室

始めました。



<http://www.kitamotokurashi.com/>



① 市街地活性化について話し合う「きたもと未来会議」

若い頃思っていた、まさにその「何もなさ」が見る角度を変えることで、とても可能性のある余白になるんです。緑の隣で暮らす贅沢と、新しい楽しみを作り出せるたくさん余白。北本には目立った特徴は無くても、暮らしのための素晴らしい環境が揃っています。そんな北本の魅力を積極的に伝え、

自分の生まれ育ったまちをずっと好きでいられるように

企画を展開するなど、市内のフィールドをうまく生かして多くの人が北本に来るきっかけを作り出すことに成功しています。日常や習慣を再発見し、面白がることを見直すことで、様々な楽しみを作り出すことができます。

北本には「何もない」。

北本に住む人、特に若い世代の人から、「日本のどこにでもある典型的な郊外のベッドタウンだ」と聞くことがあります。

本当に「何もない」のか。「何もない」なら自分たちで作ることはできないのか。そんな思いを持って、動き出した若者がいます。

令和元年4月、「暮らしの編集室」を立ち上げた渡部さんに思いを聞きます。

暮らしの編集室とは？

「暮らしを編集する」という視点とクリエイティブな発想を武器に、北本の新しい可能性を生み出していくため、私が代表となって立ち上げたまちづくりのチームです。

まちの共通言語を生み出すために始めた「きたもと未来会議」(写真①)、その未来会議で出た意見をもとに、北本市役所の芝生広場を会場として開催したマルシェ「みどりといち」(写真②)、まち歩きをしながら市内の気になる空き物件をリサーチする「空き物件ツアー」など、4月のスタートから間もないにも関わらず、多くの活動が生まれ、人が集まって来いています。

モノ・コト・ヒトをつなげ、今までになかった新しい楽しみ方や可能性を北本に生み出していきます。

なぜ始めようと思ったか？

北本出身なのですが、一度は私も「北本には何もない」と諦め東京に出ていました。しかし、この数年、まちに関わる仕事をすることが増え、北本に戻る機会が増えました。そこで改めてまちを見直してみると、若い頃には思ってもみなかった魅力が気がつきました。

駅から10分も歩くと住宅のすぐ隣で野菜が作られていて、採れたての野菜を毎日食べることができると豊かな食環境が整っています。荒川沿いの手付かずの自然環境は都心から50分程度で辿り着ける自然としてはかなり充実したもので、関東近郊のバードウォッチャーが集う北本自然観察公園もあります。また、それら全てが頑張れば徒歩でまわれるような距離感にある町のコンパクトさ

も魅力の一つです。

若い世代には「帰ってこられるまち」、今住んでいる人には「ずっと暮らしたいまち」、これから遊びに来てくれる人には「なんだか面白いことをやっているまち」というように、それぞれの人がそれぞれの楽しみを見つけてもらえるよう、暮らしの編集室を始めました。

現在、ふるさと納税型クラウドファンディング(次ページで紹介)で支援をいただきながら、北本市役所近くの清水シヨッピングセンター(パン屋「イエローナイフ」があった場所)で活動拠点の整備を行っています。DIYのワークショップ等も行予定です。楽しい時間を過ごすことが、まちに関わる理由になると思うので、ご参加いただけたら嬉しいです。若い世代や子どもたちが地元を諦めずに好きでいられるようにするため、皆さんのご支援をよろしく願います。



② 北本市役所芝生広場で開催された「みどりといち」

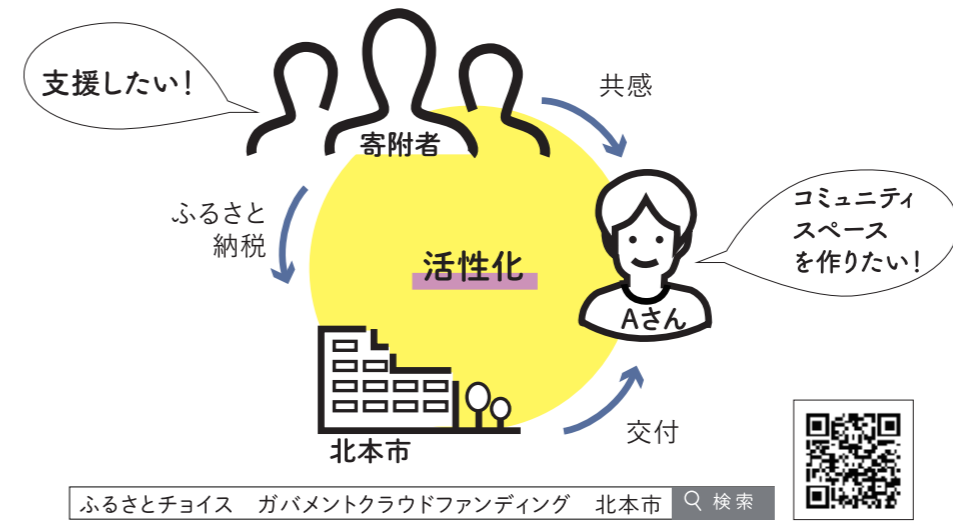
【プロフィール】1986年生まれ。北本市出身。北本市のまちづくり組織「暮らしの編集室」代表。カメラマンとして活動する傍ら、出張写真館「東ノ間写真館」やアートスペース「ツカノマ」の運営、マーケットイベント「緑側日和」「NEW HOLIDAY」の企画運営などを行う。

渡部 勇介さん

Watanabe Yusuke



取組みを応援して、北本市民も税額控除 ふるさと納税型 クラウドファンディング 始めました。

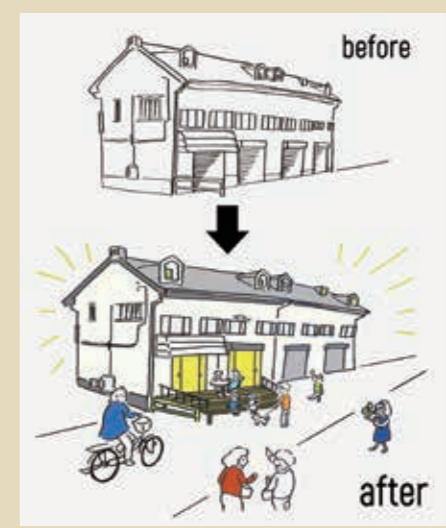


ふるさとチョイス ガバメントクラウドファンディング 北本市 検索

各地域の特産品が返礼品として手に入る上に、税額も控除されるふるさと納税。しかし、自分の行った寄附がどのように使われているのかわかりづらいという指摘もあります。そこで、寄附金が直接、北本市の団体や個人が行う特定の地域活性化事業の原資となる、ふるさと納税型のクラウドファンディング(ガバメントクラウドファンディング)を開始しました。皆さんのまちへの思い、活動する人への援助の気持ちをもとにふるさと納税という形で表現できます。

現在、2事業について1月31日まで寄附を募集しています。返礼品はありませんが、市民の皆さんからの寄附は税額控除の対象となります。ご支援をお願いします。

1 まちを見直す 「暮らしの編集室」の 拠点を作りたい



2019年、北本市の未来を作るために「暮らしの編集室」の活動が始まりました(前ページ参照)。現在はイベントを中心に活動しているのですが、もう少し日常的にまちと関わっていくために、若者が集まれる文化拠点を作ろうと計画しています。ふらっと立ち寄れるような場所で、多様なワークショップや映画上映、芸術展やトークショーなど文化的な活動を行うことで、人が

2019年、北本市の未来を作るために「暮らしの編集室」の活動が始まりました(前ページ参照)。現在はイベントを中心に活動しているのですが、もう少し日常的にまちと関わっていくために、若者が集まれる文化拠点を作ろうと計画しています。ふらっと立ち寄れるような場所で、多様なワークショップや映画上映、芸術展やトークショーなど文化的な活動を行うことで、人が

信じています。北本の未来のために、ぜひご理解ご支援をいただきますよう、よろしくお願いいたします。



2 雑木林の中に人と人の 繋がりが生まれる拠点施設を



緑被率約50%。ベッドタウンでありながら豊かな緑を残す北本市。まちの緑は市民生活に大きな潤いを与えてくれます。北本市南部に10か所近くの雑木林が点在しており市民の癒しのスポットになっています。高崎線沿線でも車窓に雑木林が広がるまちはここしかありません。

NPO法人北本雑木林の会では日ごろの保全活動はもちろん、緑の森めぐりなど、雑木林を会場としたイベントを行うなど、活用を進めています。雑木林の必要性等が市民にあまり知られていないこと、若い担い手が減少していることに危機感を覚え、「保全活動と地域交流の拠点」の必要性を感じています。多くの市民(特に親子や高齢者)が、頻りに雑木林に親しみ遊んでほ

しい、いつも子どもたちの声が聞こえる雑木林にしたい。そこで、北本市保護林に隣接する場所に「愛称・どんぐりハウス」をガバメントクラウドファンディングを活用し、建設します。皆さんのご支援をよろしくお願いいたします。

NPO法人北本雑木林の会

1991年結成。JR高崎線沿線の北本中央緑地など市街地に10か所余り点在する雑木林の伐採更新・清掃・下草刈り等の維持管理を行っている。また、毎月森と子育ての集い(モリトコ)を開くなど雑木林を活用した地域交流イベントも多数行う。

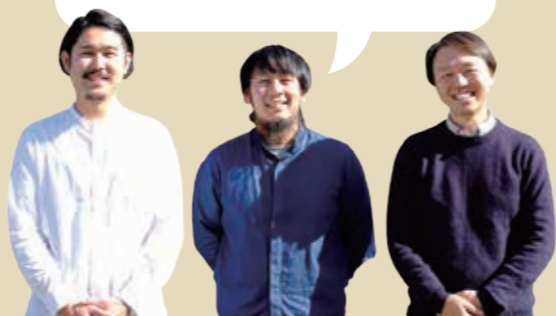


北本市の緑のシンボルである、市街地の雑木林。これからもこの環境を残し続けるために、皆さんからのご支援、よろしくお願いいたします。(代表:白川)

詳しい内容と、ふるさと納税を通じたご支援はこちらから
<https://www.furusato-tax.jp/gcf/684>

詳しい内容と、ふるさと納税を通じたご支援はこちらから
<https://www.furusato-tax.jp/gcf/683>

東京や大宮などの都会に出ていなくても多様な文化に触れられる場所を北本に作りたと思っています。色々な可能性の幅を示していくことが未来の可能性につながると信じています。ご支援、よろしくお願いいたします。(編集室メンバー:左から若山・渡部・岡野)



「暮らしの編集室」の拠点、「どんぐりハウス」共に2020年 3月正式オープン予定